

#### (4) 第7回歴史講演会

12月4日(日) 13:30~ 八王子市加住市民センターにおいて第7回歴史講演会『滝山城跡の保存と活用』を行いました。今回は「滝山城跡遺構説明版」の設置を記念しての講演会となりました。(参加者52名)

第一部は、加藤哲氏(八王子市文化財保護審議会副会長)による『北条氏照の領域支配と滝山城』。「北条氏の多摩進出」、「北条氏照の大石領継承・大石氏入嗣と滝山城の確立」、「北条氏照の領域支配と滝山城・家臣団統制と領域支配」など古文書とその解釈を併記した資料や文書や写真などの映像を使い、深い内容ながらも理解しやすい講義でした。

第二部は、中田正光氏(中世城郭研究家)による『滝山城の「北条流からくり」を読む』。滝山城跡内に見られる北条流築城術や攻撃・防御の仕掛けを絵図によって解説いただきました。滝山城跡の豊富な踏査と観察に基づいた解説は、新しい遺構説明板にも活かされています。



#### (5) その他

10月29日(土) 法政大学第27回多摩シンポジウム『文化遺産の保存活用とNPO』が開催されました。西山理事長が「滝山城跡群・自然と歴史を守る会」の活動状況を報告をしてやパネルディスカッションに参加しました。他に「NPO法人 小石川後楽園庭園保存会」「NPO法人 ゲートシティ多賀城」などが活動状況の報告を行いました。



12月4日(日) 「滝山城跡群・自然と歴史を守る会」の忘年懇親会を「江戸ッ子鮓」(八王子市加住町)で行いました。忘年会の冒頭で、会員の加藤さんが腹話術を披露。西山理事長扮する北条氏照を人形代わりにした『等身大腹話術』に会場は大爆笑でした。



#### 滝山甲冑隊 デビュー!!

ペーパー甲冑を身に着けた**滝山甲冑隊**が、「『甲冑を着たガイド』がご案内」と銘打った滝山城跡散策ツアー(3月25日)にデビューしました。三つ鱗の前立て、黄色い旗指物、陣笠や手甲・すね当てなどそれぞれに工夫を凝らした甲冑姿の散策ツアーのガイドは大好評でした。今後のイベントなどへの利用も考えられます。長槍を手にした雑兵姿の中田さんは、戦国時代からタイムスリップしてきたかのようです。



#### 平成24年度の活動計画(案)が出来ました。

滝山城跡群・自然と歴史を守る会ホームページ(<http://takiyamajo.com/>)のメニューから「滝山城跡群・自然と歴史を守る会」→「活動予定」に掲載してありますのでご確認ください。



# 滝山だより

よみがえる滝山城

NPO法人 滝山城跡群・自然と歴史を守る会  
会報 第3号 平成24年5月1日発行

#### 平成23年10月~平成24年3月活動

##### (1) 定例活動(下草刈り、景観伐採作業)

遺構説明板の設置予定場所を中心に、下草刈りや景観伐採作業を行っています。

日付	時間	実施場所
10/16(日)	9:30~15:00	弁天池周辺
11/20(日)	9:30~15:00	千畳敷腰曲輪周辺
12/18(日)	9:30~15:00	弁天池周辺(弁天島の見通し阻害樹木伐採)
1/15(日)	9:30~15:00	大馬出周辺(遺構説明の景観阻害樹木伐採)
2/19(日)	9:30~15:00	三の丸東側空堀周辺、角馬出(千畳敷東側)周辺
3/18(日)	9:30~15:00	カゾノ屋敷東空堀周辺



三の丸東側空堀(作業前)



三の丸東側空堀(作業後)



ケガのないよう作業前に体操をします

##### (2) ツアーガイド

3月25日の滝山城跡散策ツアーは「『甲冑を着たガイド』がご案内」という新しい試みで実施しました。新聞や八王子テレメディアなどに取りあげられたこともあり、多くの方に参加いただきました。

日付	名 称	主催または依頼者	参加者
10/2(日)	滝山城跡見学のガイド	遠州古城・砦探訪会(浜松市)	6名
11/2(水)	滝山城跡見学のガイド	八王子市立加住小中学校 中学部1年生	22名
11/6(日)	自然体験講座 (滝山城散策ツアーのガイド)	八王子市北部地区環境市民会議	43名
3/18(日)	滝山城跡見学のガイド	八王子市打越町会	15名
3/25(日)	滝山城跡散策ツアー	滝山城跡群・自然と歴史を守る会	86名



遠州古城・砦探訪会(10/2)



八王子市立加住小中学校 中学部1年生



滝山城跡散策ツアー(3/25)

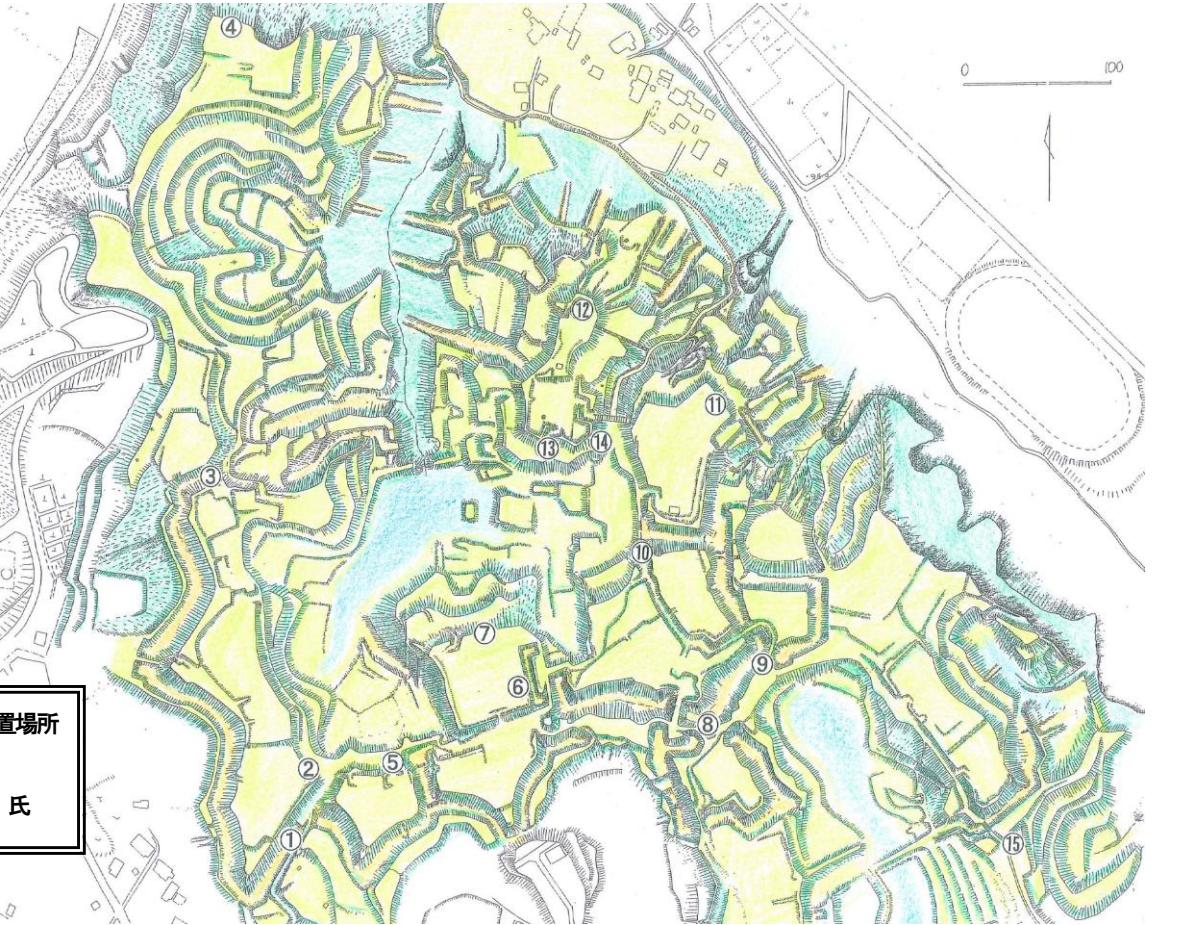
##### (3) 城郭学習会

1月29日(日)の城郭学習会は、滝山城跡内の遺構説明板設置の事前準備として、中世城郭研究家で会員でもある中田正光さんに案内と解説をしていただきながら、15か所の設置予定地周辺の状況を確認しました。前週に降った雪が残っていましたが、予定地周囲の木や枝など景観を阻害するものを点検しました。午後からは全員で小宮曲輪虎口周辺の景観伐採を行い、枠形虎口の模擬柵を設置しました。



# 新・遺構説明板が完成しました！

滝山城跡内にこれまで設置されていた置石型の説明板に代わり新しい遺構説明板の設置が完了しました。新・遺構説明板は滝山城跡内の15か所に設置され、中田正光氏作成の縄張り図や絵図（「滝山城戦国絵図」掲載）を使い、城跡内の現在地とその場所の防御の仕掛けが絵と文により理解しやすいものになっています。このような説明板を城跡全体に設置するのは初めての試みです。滝山城跡を訪れる人達にとって、城跡がよりわかりやすく、そして親しみやすくなることが期待されます。



新・遺構説明板設置場所  
(①～⑯)

作図:中田 正光 氏



解説

大手口と思われる天野坂からの堀底道は、城兵が効果的に攻撃ができるように工夫されている。小宮曲輪と三の丸の間には枡形虎口（出入口）が設けられていた。（図の中で復元）

攻めのぼる敵側にとっては大変な脅威にさらされる場所で、侵入するのが難しかったと思われる。

文責: 滝山城跡群・自然と歴史を守る会  
東京都西部公園緑地事務所  
小宮公園サービスセンター 040-823-1615

## 新・遺構説明板

新・遺構説明板（左図）には、「滝山城縄張図」が掲載され、現在地付近が四角い赤枠で示されています。その右には、現在地の『拡大図』があり、拡大図と重なるように戦国時代の攻防の『想像図』が描かれていて、解説文を読みながら目の前に当時の様子が広がるような工夫がされています。



左の遺構説明板が設置されている周辺の様子

遺構説明板の設置場所と解説文（①～⑯の数字は左の「新・遺構説明板設置場所」の番号に対応しています）

### ①天野坂から枡形虎口へ

大手口と思われる天野坂からの堀底道は、城兵が効果的に攻撃ができるように工夫されている。小宮曲輪と三の丸の間には枡形虎口（出入口）が設けられていた。（図の中で復元）攻めのぼる敵側にとっては大変な脅威にさらされる場所で、侵入するのが難しかったと思われる。

### ②小宮曲輪

（家臣屋敷）

「小宮曲輪」と称されてきているので氏照の家臣の中に西多摩地域出身の家臣（小宮氏）が活躍していたと思われる。小宮曲輪の内部は土壘（土盛り）でいくつかの屋敷に区切られていたと考えられる。小宮曲輪と三の丸との間には枡形虎口（出入口）があったが車道により消滅した。（図の中で復元）

### ③小宮曲輪枡形虎口

（北の備え）

山の神曲輪方面から小宮曲輪へと攻め進むには、枡形虎口（出入口）を通過しなければならない。敵は狭い通路で一列縱隊にならざるを得ない。それに対して城兵は、敵の頭上や側面から弓矢、槍、鉄砲で攻撃をする。敵にとってはてごわい場所に攻め入ることになる。

### ④山の神曲輪

（民衆の避難場所と推定される）

「山の神」とは全国各地に残る民間信仰で、農耕の神である。春は里に下り、秋の収穫を見守ると再び山に戻ってくる。この山の神を祀る山の神曲輪は、城下や周辺村々の民衆たちを、敵の乱取り（放火や略奪）から守るために設けた避難場所だったと考えられる。永禄十二年（1569年）、城周辺の村々は武田軍（武田信玄）によって焼き払われた。このとき、一般民衆は領主の城（滝山城）へ避難していたと思われる。

### ⑤コの字形土橋

（強力な側面攻撃）

堀を掘る際に、一部を土のままに残し通路として使う場所を土橋という。当時はもっと狭く、敵方の侵攻に対して4回も体の向きを変えて進ませ、側面攻撃ができるように工夫していた。敵の直進を防ぐための土橋であり、大変貴重な城郭遺構である。

### ⑥馬出

（少人数で守れる出入口前の防御設備）

虎口（出入り口）の前方に設けた空間を馬出という。この場合は方形に作られていることから「角馬出」と呼ばれている。馬出があることによって大変堅固な守りとなり、守備する城兵の出撃も容易である。二の丸の三ヶ所の出入口には馬出がそれぞれに設けられている。

### ⑦弁天池跡

（宴を楽しむような池と推定される）

眼下には中の島と池跡が見える。実は、氏照の弟、氏邦の鉢形城（埼玉県寄居町）にも中の島があり、その池を「弁天池」と呼んでいた。今では池をせき止める土手は分断されているが、当時はつながっていて湧水や雨水を溜めていた。小舟を浮かべて宴を楽しむような池だったようと思われる。

### ⑧二の丸

（集中的防御）

滝山城で最も防御性に優れているのが二の丸である。三ヶ所の出入口にはすべて「馬出」を備え、集中的な防御の構えが認められる。大馬出は大勢の城兵が守り、二方向からの通路を抑えている。築城家は、二の丸を防ぐことによって本丸、中の丸を守れると考えたようだ。

### ⑨行き止まりの曲輪

（ふくろのねずみ）

「行き止まりの曲輪」とは「ふくろのねずみ」という意味で、両橋が狭い土橋になっていて行き止まりのような形になる。寄せ手側には行き止まりのからくりだが、城兵からすると格好な馬出（出撃用）となり、実に巧妙な防御が施されている。こうした「行き止まり」の曲輪は二の丸の南側にもあり、大変貴重な城郭遺構である。

### ⑩中の丸南側の防御

（櫓門の推定）

中の丸の南側は二方向から攻め寄せられ敵が合流できる場所だった。この場所には木橋の前面を守る防御設備が必要である。土壘の残り方から考えて、櫓門があったのではないかと推定される。

### ⑪中の丸

（本丸の次に重要な曲輪）

「中の丸」の山腹には腰曲輪と呼ばれる平場が多摩川に向かって数多く設けられている。このことから、北側の多摩川方面に対して警戒していたと考えられる。附近には河越道の渡河地点である「平の渡し」がある。この重要な地点を抑えるために滝山城は構築されたと考えられる。

### ⑫滝集落から

本丸への侵入路

（搦手口からの侵入路）

本丸北西側の枡形虎口（出入口）は滝集落からの侵入路を防御するため、出丸と本丸から挟み打ちできるように工夫している。（二方向から敵を挟んで攻める）出丸の先端部分には馬出を備え、縦横の堀と共に強力な防御態勢を整えていたと思われる。

### ⑬本丸南側枡形虎口

（小宮曲輪からの城道）

本丸の主たる出入口は二ヶ所ある。一ヶ所は中の丸から引き橋を渡って入る虎口。もう一ヶ所は南側に設けられている。枡形は敵の直進を防ぐための工夫である。もし敵がこの虎口に侵入すると、体の左側に城兵の攻撃を受けることになる。現在でも枡形が大変よく残っている城郭遺構である。

### ⑭本丸への木橋

（最終的な砦へ導く橋）

当時の木橋はもう少し下に架けられていた。おそらく、中の丸に敵が押し寄せてきたら本丸へ半分程引き込むことができたと思われる。人工的に掘られた大堀切の上に架けられており、本丸が最終的な砦となっていた様子がわかる。「大堀切」はもっと深かったことが試掘によって確認されている。

### ⑮木橋

（引き橋）

唯一尾根続きのこの場所は、滝山城の弱点であったと考えられる。そのため、防御は厳重を要した。この橋は「引き橋」だったと思われる。橋の下の堀は大池の土手とつながり、一大防御線を考えた縄張（城の設計）になっていた。

設置年月日：平成24年3月

文責：滝山城跡群・自然と歴史を守る会  
東京都西部公園緑地事務所  
小宮公園サービスセンター